

俗展示室に腰を下ろし、学芸員から展示物の説明を聞いたことを覚えていきます。

多くの小中学生が、せっかく博物館を訪れて、いろいろ調べてくれたのに、電車の都合で質問タイムが十分にとれないこともあり、後日届く感想文の中に質問があれば、できるだけ返事を書き、見学のフォローもしています。



応援します好奇心

博物館では、昨年の長期休暇中を除いた第1土曜日に「子ども歴史相談室」を開きました。これはあらかじめ質問したい内容を教えてもらい、当日、学芸員や市史編さん室の先生が質問に答えるというものです。

昨年は、総合学習で学区内の歴史を取り上げた学校もあり、グループで訪れて、さまざまな質問をしてくれました。寄せられた主な質問は次のとおりです。

- ・奈良の大仏について
- ・市内の神社について
- ・土器について
- ・古墳について（清田町の権現山古墳、大塚町内の古墳）
- ・祭について

特にこれといった質問はないけれど展示しているものには興味があるという子には、学芸員と一緒に展示室内を回って解説をしました。見学者が大勢の場合、あちらこちらで呼びがかかるので、一人ひとりの問いかけに対して十分な時間を割くことができません。小人数ならば展示室内を興味のある順に見て回ることができ、中には1時間以上かけてじっくり展示を見ていた子もいました。

今年は、特に決めた曜日を設けず、「子ども歴史相談室」を随時行っています。興味を持った時が学びたい時です。歴史マンガや、図録類を集めた図書コーナーもありますので、自主学习にもご利用ください。



Tシャツのタネ?

博物館では、相談だけではなく、体験学習を含めた講座も行っています。

昨年、開催した「Tシャツのタネ?」では、普段着ている服が何から作られているか、素材別に服を分類してもらった後、ワタの歴史について学び、ワタの実からタネを除く作業から糸を紡ぐまでの

体験をしてもらいました。

ワタくり機で種を取り除く作業は小さい子でも簡単にできるため、楽しんでもらえたようでした。しかし、糸紡ぎ作業については、繊維がやや短い和ワタを使用するため、すぐに糸が切れて少々難しかったようです。それでも、手作業ならではの味わいある糸を紡いでいました。



▲ワタくり&糸紡ぎに挑戦中



クリスマスキャンドルを作ろう!

体験といえばもうひとつ。生命の海科学館との合同企画も初めて行いました。博物館のメイン展示である灯りと12月という開催時期を考慮して、親子でのクリスマスキャンドル作りを実施しました。

ロウソクの歴史や、日本のロウソク（和ロウソク）と西洋ロウソク（パラフィン）の違いなどの歴



▲クリスマスキャンドル完成

史系分野は博物館学芸員が解説し、物質の燃焼についての理系分野は科学館学芸員が解説しました。また、和ロウソク職人からは原材料や文献資料の提供など、ご協力をいただきました。

当日は、それぞれ趣向を凝らしたすてきなキャンドルが完成し、十分に用意したつもりだった器や飾りの材料が足りなくなるくらい熱が入りました。

今後も科学館や水族館など、市内の各施設と連携した企画に取り組んでいきます。

秋からは、農具や街道など、地元に着した展示を予定しています。お楽しみに。

博物館
学芸員 小田美紀